

秋と春、大学の学期始めの項、ウィーンでは隠れたベストセラーが出回る。ウィーン大学の講義目録がそれだ。町の書店でも発売されるため、聴講手続きのために買って行く学生に限らず、一般市民も簡単に手に入れることができる。この講義目録には、ウィーン大学のすべての学部・学科にわたって、その講義の題目、曜日、時間、講義室、担当の教授講師名が載せられている。部厚い講義目録に目を通せば、大学の関係者でなくとも、教授陣の陣容ならびにその授業の概要を、つかむことができるわけである。

それによれば、ウィーン大学は次の8つの学部から成る。カトリック神学部、プロテスタント神学部、法学部、社会・経済学部、医学部、基礎・総合科学部、精神科学部、数理・自然科学部。ヨーロッパの古い大学を形造って来た4つの学部、神学部・法学部・医学部・哲学部の伝統は、法学部が2つの学部、哲学部が3つの学部に分化してはいるものの、今だに受け継がれていることがわかる。なお、ウィーンにはさらに単科大学として、工科大学、農科大学、経済大学、獣医大学、音楽大学、美術大学、工芸美術大学などがある。私立大学はない。

かつての哲学部の流れをくむ3つの学部について、その学科構成を見ると、次のようになっている。まず、基礎・総合科学部は、哲学、政治学、心理学、教育学、養護教育学、社会学、出版・コミュニケーション学、演劇学、民族学、地理学、体育学といった学科から成る。精神科学部に属す学科としては、先史学、考古学、古銭学、歴史学、古代美術史学、中世・近世・近代美術史学、音楽学、言語学、フィンランド・ハンガリー学、ドイツ・北欧語学文学、比較文学、古典語学文学、ビザンティン・近代ギリシャ学、英米語学文学、ロマンス語学文学、スラヴ語学文学、エジプト学、アフリカ学、ユダヤ学、オリエント語学文学、インド・古代イラン学、チベット学・仏教学、中国学、日本学・朝鮮学、民俗学、翻訳者・通訳養成学がある。数理・自然科学部に属すのは、科学基礎論、論理学、数学、天文学、物理学、気象学・地球物理学、化学、地学、人類学、植物学、動物学、家政栄養学、薬学といった学科である。この他にラテン語や外国人のためのドイツ語なども、各学部共通の講義として開講されている。日本の大学にはあまり見られない学科もいくつかあるが、基本的にはオーソドックスな学科編成である。最も大きな違いは、日本の大学に比べて、地域研究

がヨーロッパに偏らず、全世界にわたって進められている点であろうか。学際的領域の講義は、2つないし3つの学科にわたる講義として開講されている。またそうでなくとも、主専攻の他に一つ副専攻を取ることが義務づけられているので、学生の聴講の仕方にも自ずから学際的になるようだ。



中庭に面する回廊

これらの学科の研究室は、大学本部の建物やその裏手にある新校舎を中心に、ウィーンの旧市内に散らばっている。たとえば、日本の国文学科に当るドイツ・北欧語学文学の研究室は、新校舎の他に、旧市内の国立オペラ劇場の近くの建物の3階にもある。2階に演劇博物館、中庭に国立の劇場の切符前売所を擁す瀟洒な建物である。日の暮れが足早に訪れる冬の学期、この研究室のゼミナール室からは、映画「第三の男」の舞台となった、ホテルや喫茶店のネオンがともし始めるのも見えたものだった。

演劇学の研究室はかつての王宮の一角にある。オペレッタに関する音楽学科との共通講義は、その研究室の奥まった一室で行なわれた。ウィーン大学では、一般の市民が講義を聴きに来ることが珍しくない。この講義にも、若い学生達にまじって、年輩の聴講者の姿がかなり見受けられた。その中の1人、講義の際中時折言葉をさしはさむ老人は、こと、数々のオペレッタ上演についての知識にかけては、授業を担当する年下の先生の知識を上回るようであり、またそれが自慢のようでもあった。学期が改まる頃、その先生が講師から教授に昇進したという記事が、詳しい解説入りで新聞の文化欄に載った。ウィーンでは、大学の教授が新たに1人誕生したということは、市民の間でも話題の種になるらしい。

市内に散在する研究室は、散在したまま今のところその姿を変えそうにない。ウィーン大学で、もし統合移転が行なわれるとすれば、すでにその時、大学はそれまでとは異なった社会的役割を果たすようになってのみならず、大学と市民の関係も変質

していることであろう。

(ドイツ語・助教授)

# 学部の記録

## 人事異動

### <採用>

(教官の部)

10. 1 井上 和子(英語 講師)  
濱谷 清裕(自然環境研究 教務補佐員)

10. 15 於保 幸正(自然環境研究 助手)

11. 15 天野 雅郎(比較文化研究 助手)

(事務の部)

7. 1 渡辺 正一(保健体育 事務補佐員)

11. 1 佐々木久仁子  
(環境科学コース 事務補佐員)

総合科学部助教授より

10. 16 海老原直邦(人間行動研究 助手)  
富山大学教養部助教授へ

### <配置換>

(教官の部)

10. 1 田中 真造(ドイツ語教授)

京都教育大学教育学部教授より

(事務の部)

7. 1 迫井 義昭(用度係 文部事務官)  
用度係配管工より

### <昇任>

(教官の部)

10. 1 実森 正子(人間行動研究 助手)  
千葉大学文学部講師へ

村上 誠(日本研究 教授)  
総合科学部助教授より

清水廣一郎(ヨーロッパ研究 教授)  
総合科学部助教授より

宗岡洋二郎(人間行動研究 教授)  
総合科学部助教授より

福居 和彦(ドイツ語 教授)

### <辞職>

(事務の部)

6. 30 山本 正和(保健体育 事務補佐員)

8. 31 山下 裕子(環境科学コース 事務補佐員)

11. 14 安田良理子(学務第一係 事務補佐員)

### <改姓>

10. 17 若井 和子(英語 事務補佐員)  
旧姓 岡本

## 出張及び研修

永見 勇(英語 助教授)

渡航先 アメリカ合衆国

目的 フルブライト招へい講師として、プリンストン大学及び同神学校において、講義並びに宗教倫理学、宗教社会学の研究のため

期間 56. 8. 1~57. 6. 15

安藤 正昭(人間行動研究 助手)

渡航先 アメリカ合衆国

目的 腸のイオン・水輸送に関する共同研究

期間 56. 8. 16~57. 8. 13

根平 邦人(自然環境研究 助教授)

渡航先 オーストラリア

目的 第13回国際植物学会議出席並びに資料収集

期間 56. 8. 18~56. 9. 5

近藤 勝彦(自然環境研究 講師)

渡航先 オーストラリア

目的 第13回国際植物学会議出席並びに資料収集

期間 56. 8. 18~56. 9. 5

内山 敬康(情報行動基礎研究 教授)

渡航先 アメリカ合衆国  
目的 日米セミナー“蛋白質分子の自己形成”  
に出席並びにスタンフォード大学及びカリ  
フォルニア大学において共同研究  
期間 56. 8. 10～56. 8. 30  
前田 渡(情報行動基礎研究 教授)  
渡航先 アメリカ合衆国  
目的 アメリカ合衆国イリノイ大学のシステム  
自動診断研究グループにおいてシステム  
解析と診断に関する研究を行うため  
期間 56. 7. 21～56. 12. 30  
山下 和男(自然環境研究 助教授)  
渡航先 アメリカ合衆国  
目的 日本学術振興会日米科学技術協力事業  
「光合成による太陽エネルギーの転換」  
による共同研究実施のため  
期間 56. 7. 15～56. 11. 15  
小島 健一(基礎科学研究 助手)  
渡航先 フランス  
目的 希土類化合物に於る磁性と超伝導の共存  
機構の研究  
期間 56. 8. 12～57. 8. 17  
嶋 陸奥彦(アジア研究 助教授)  
渡航先 大韓民国  
目的 韓国農村の社会人類学的研究のため  
期間 56. 7. 20～56. 10. 5  
宇田川真行(基礎科学研究 助手)  
渡航先 アメリカ合衆国  
目的 第5回強誘電体国際会議出席のため  
期間 56. 8. 2～56. 8. 28  
栃木 省二(自然環境研究 教授)  
渡航先 中華人民共和国  
目的 日本と中国の砂防技術の研究交流のため

期間 56. 8. 3～56. 8. 23  
荒木 博之(英語 教授)  
渡航先 アメリカ合衆国  
目的 プリンストン大学主催の「日本文学の理  
論と実際」会議出席のため  
期間 56. 8. 15～56. 8. 23  
安田 喜憲(自然環境研究 助手)  
渡航先 大韓民国  
目的 韓国のアカマツ林の比較生態史的研究の  
ため  
期間 56. 7. 21～56. 7. 31  
米重 文樹(ロシア語 助教授)  
渡航先 ソビエト連邦  
目的 プーシキン・ロシア語研究所にてロシア  
語教師研修ゼミナール参加  
期間 56. 8. 29～57. 6. 30  
小林 文男(アジア研究 教授)  
渡航先 中華人民共和国  
目的 中国経済の現状調査  
期間 56. 9. 15～56. 9. 28  
田代 嘉宏(基礎科学研究 教授)  
渡航先 大韓民国  
目的 韓国数学会及び各大学において微分幾何  
学の共同研究並びに研究情報交換のため  
期間 56. 10. 6～56. 10. 17  
陣崎 克博(英米研究 教授)  
渡航先 アメリカ合衆国  
目的 アメリカ合衆国テネシー州メンフィスに  
おいて開催される第8回米国アメリカ学  
会大会参加及びコロンビア大学において文  
献調査  
期間 56. 10. 28～56. 11. 5

〈 編 集 後 記 〉

思った通り自由に自然に生きる。このためには打算というものを排除せねばなるまい。損得ぬき、我が心の命ずるままに。(井上亮一)

“あ”という間に19号が出来、“い”と言う前に20号が出来ちゃった。私は今回何もしませんでした。深く反省しております、ハイ。(隠岐幸代)

時間がたつのは、はやいものです。楽しい時もつまらん時も、長さは一緒です。今回はひどく働きました。しみじみ感じます。(桐木淳二)

何もしないうちに2つも『飛翔』ができた。ごめんなさい。今度からがんばりまーす。

(高上佳子)

『飛翔』第20号。僕が書いたのはこの後記のみ。次号での活躍を誓うと共に、記事を書いてくれた、他の委員に感謝。(竹下 齊)

つかれました。(戸田恵子)

「学祭、学祭」で追われた十月半ば、「がくさいが、くさい」と言ったらおこられた。だからほかの編集後記は高貴です。(橋本記一)

……………。(山田順二)

自分の英語に全く自信がなくなりました。何か言おうと思っても言葉が出て来ないのですから。

今現在の私はまさに「音楽評論家」の部類なのではないでしょうか。(大原高志)

やっとできた。いくつつぶれた(?) (つぶした……) 企画もあったけど……!

軟弱路線だけど、まだ当分はガンバルぞー!!

(雲井 司)

バイトと「飛翔」の2本立て。勉強の方は当分おルス。専属カメラマンでがんばってます。(廣谷義明)

20号です。やっと今年中に出すことが出来ました。

目次を見てもおわりの様に、今号はかなりバラエティに富んだ内容となっています。

特に、外国人の先生方のお話は、日頃種々の理由から、直接うかがうことが少い(あるいはほとんどない)だけに、読者の皆様にとっても興味深かったのではないのでしょうか。

しかし、記事の間口を広げすぎた為1つ1つに対する奥行きが不足したのではないかと反省しています。

最後になりましたが、20号へ原稿をお寄せいただいた方々どうもありがとうございました。紙面を通してお礼申し上げます。(松浦 豊)

昭和56年度『飛翔』編集委員

教官	木本忠昭(社会)	清水廣一郎(地域)	松浦 豊(社会)	安永省二郎(地域)
	伊東 保(外国語)	櫃田倍之(情報)	山上弘二(社会)	
学生	53生 足立哲男(社会)	中上京治(環境)	56生 井上亮一	隠岐幸代
	54生 藤本桂子(地域)		桐木淳二	高上佳子
	55生 大原高志(環境)	岡田敏子(社会)	竹下 齊	戸田友子
	乙武隆司(環境)	雲井 司(情報)	橋本記一	山田順二
	成田実香(情報)	廣谷義明(社会)	事務 村中 博	山田精二